下手なほど丁寧さそうな田植えな
なく子は手に境へて田植え
△日
傘
人
全

藤原や身動き出
ぬ日傘かな

初日には横にちならせ
衣更衣

△短夜

大澤千鶴（十七歳）

雪つぶて
つねと

一、いつか積りし大雪
庭に戦かえ稀児等の
よせくる敵はかはくとも

雪のつぶてに

あかき心のひと筋に

向

手足は雪にこばる
てども

向

手足は雪にこばる
てども
もど子と人婦

三

天地はよしや晴くとも
飯をさずに砕かくな
黄金の鶴の光あり
み雪の色は染められる

勇みに勇つはもれる
大和男児の生血にて

四

人と生まれ甲斐あつて
進めやすめ諸共に

玉と散るとも死なし

君のみ前にひかりある

五

命はかるし義はかかる

動功を建つのはこの時ぞ
砕の轟きに聞のこる

題を限った非比の高い句の集らなかったのを衰だ
残念でした御前のも通り天人三名に賞を送りましした

俳句披露
(集句二百十韻)

釜衣かざらん父母の前

東京久米辰子

四十九